

民間活力導入支援

PPP・PFIについて

PPP(Public Private Partnership)とは、公共サービスの提供に何らかの形で民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、PFI(Private Finance Initiative)、民間委託や指定管理者制度等の手法も含まれ、幅広く官民が協同して事業を実施する形態を総称したものです。行政がこれまで担ってきた公共サービスを官と民とが協力しながら、より効率的で質の高いサービスを提供しようというものです。その中でPFIは施設の建設、運営等に民間の資金とノウハウを投入するもので、官民協働の概念であるPPPを実現するための一つの手法と言えます。PFIは1999年のPFI法施行後15年以上が経過し、着実に実績を増やしています(2022年度までに1,004件、うち公共施設等運営事業数は48件)。さらに、2022年にはPFI事業の対象となる公共施設が拡大され、今後ますます上下水道分野においても民間活力を導入するケースが増えてくるものと思われます。

PPPの主な形態

PPPは民間側が担う業務と責任範囲、所有形態等でいくつかに分類できますが、従来の発注方式と違う特徴として は、1) 包括的で長期の契約であること、2) 性能発注であること、3) 民間資金の活用(PFIの場合)があげられます。

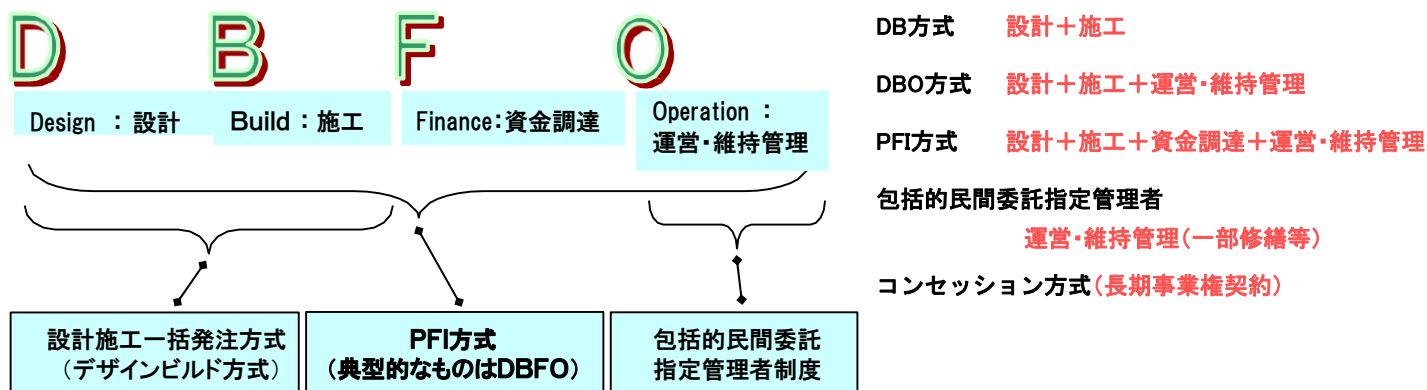


図1 実施範囲による分類

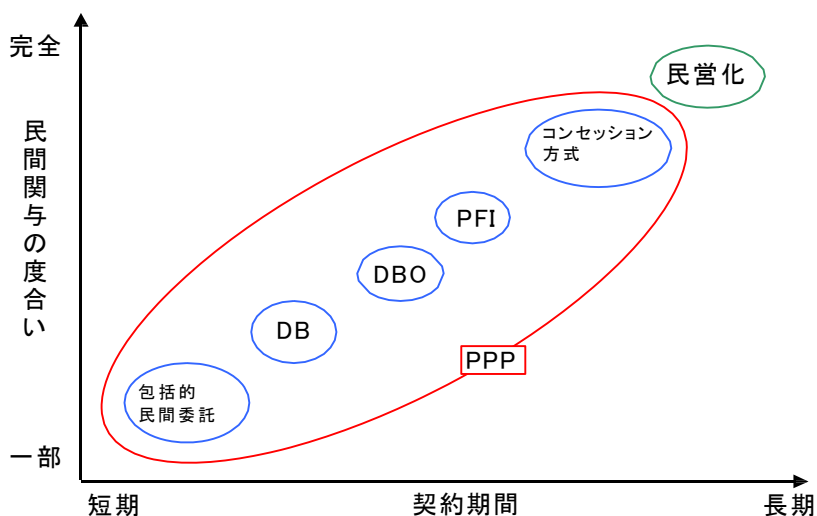


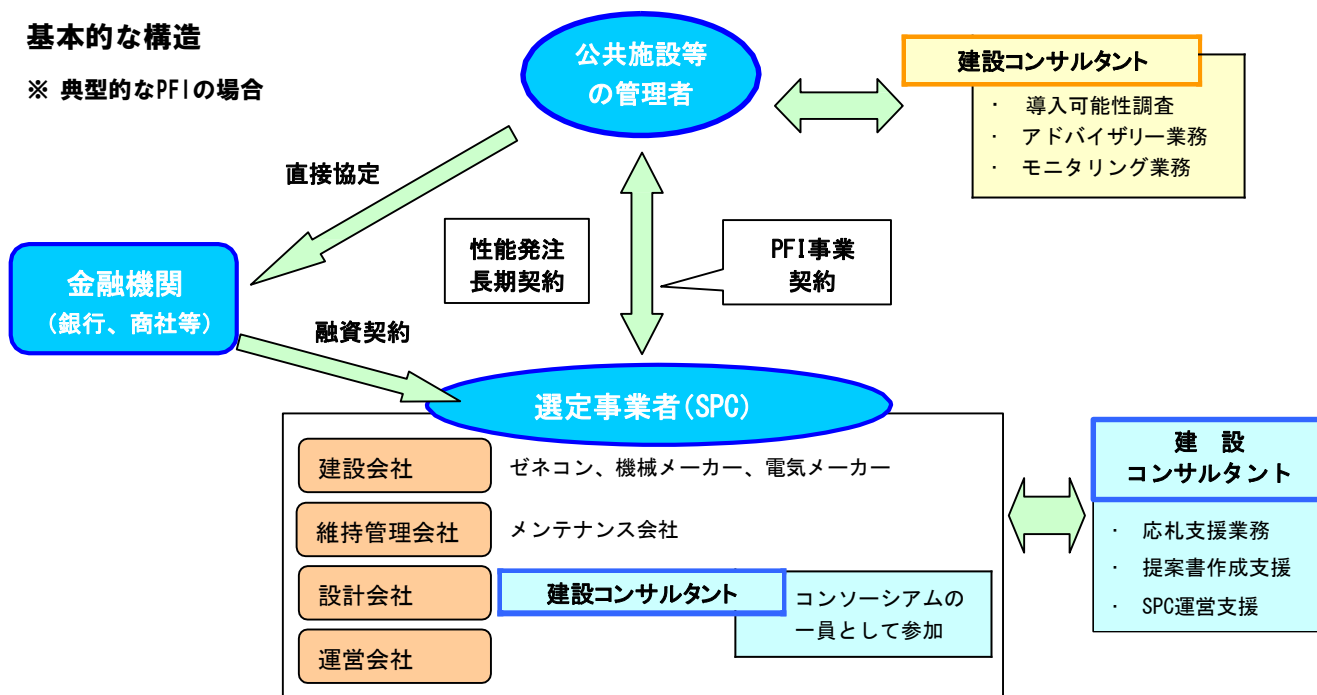
図2 PPPのイメージ

PPPにおける建設コンサルタントの役割

建設コンサルタントはPPPの枠組みの中で、図3のように行政(発注者)と事業者(民間)両方の側に役割があります。当社はこれまでの実績と経験をベースに、効率的な事業運営を実現するためのコンサルティングを行います。

基本的な構造

※ 典型的なPFIの場合



※原則的にアドバイザーは事業者側に参加できない。

図3 PPPにおける建設コンサルタントの役割

民間活力導入支援業務

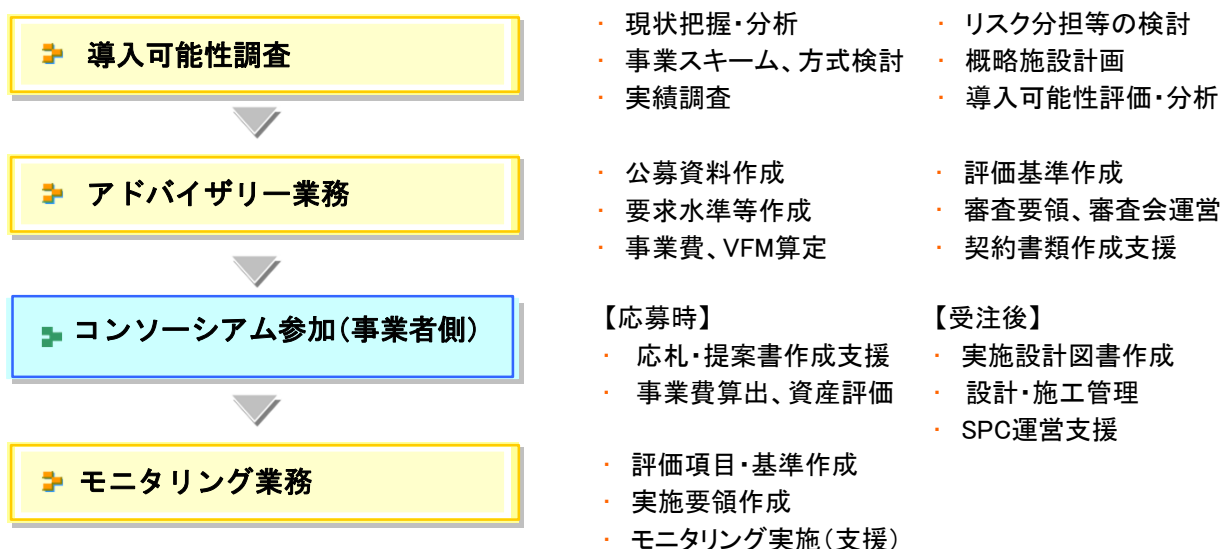


図4 業務フロー

